

時の動き

過去最大の防衛予算

編集委員

栗原 規昭

止まらない防衛費の増額

政府は昨年末、今年度の予算案で防衛費を5兆2000億円に増やす方向で調整に入りました。

安倍政権発足以来、防衛費は年々増加しこの予算案では過去最高となります。民主党政権時は約4兆7000億円の予算であったことを考えると、異常とも言える増額ぶりです。安倍政権は軍事大国を目指している、と思われる方も仕方ない状況です。2015年成立した戦争法と併せて考えれば、自衛隊はとくに、専守防衛の枠を超え、ひたすら海外での戦争強化に向けて着々と準備を進めていると言つて過言

ではないでしょう。

北朝鮮脅威論は「絶好の好機」

安倍政権が防衛予算の増額の根拠としているのが、北朝鮮の脅威です。核実験、ミサイル発射を国際世論を無視して繰返している現状は、韓国だけでなく、日本を含めた極東、さらには世界的な不安要因となっていることは否定できません。しかし、これが安倍政権にとつて、なんとも都合の良い事態となつていることも事実です。

防衛予算の増額に、ちよつと多過ぎるのではと思つている人でも、では北朝鮮からミサイルを撃ち込まれたらど

うするのだ、迎撃（イージス）システムの強化は必要だろうと言われたら、「うっ」と詰まつてしまふのではないのでしょうか。だから防衛予算の増額は当然必要なのだと押し切られてしまっています。

北朝鮮だけでなく、中国の海洋進出への対抗、離島防衛なども口実にされています。

そもそも違憲の自衛隊

今、自衛隊の存在は広く世間に支持されています。違憲云々は多くの人々は考えていません。それは、東日本大震災で見られたような、災害復旧に大



陸上型イージス（イージス・アショア）

大きく貢献している事実があるからです。軍事面で見ても、専守防衛に徹し、なしくずしの海外派兵はあったものの、一発の銃弾も撃たず、他国との交戦がなかったからです。

しかし、様々な意見はあるにしても、憲法九条の条文を素直に読めば、自衛隊はまさしく軍事力であり、禁じられた存在に違いありません。

本性を現わしてきた自衛隊

年々増加する防衛費をみただけでも、自衛隊が軍隊としての本性を現わしてきたと言えますが、その巨額の防衛費によつて購入する装備、すなわち戦闘機、護衛艦、戦車等々を見ると、自衛の範囲をはるかに超えた、「敵地」を攻撃する高度な能力を備えたものになつてきているのです。

日本の防衛費の異常な増加は、かつて日本に侵略された国々にとつて、昔の悪夢を呼び覚ますことになつていなか、大いに危惧されるどころです。

進むアメリカとの一体化

昨年のアメリカ大統領トランプの訪日時、安倍晋三は、アメリカから巨額の兵器の購入を約束しました。

そして、日本の防衛費とは直接関係のない、米軍再編関連の経費も増額されようとしています。米海兵隊のグラム移転費用や普天間基地の移設費用の

負担などです。

こうして、北朝鮮への制裁強化なども含め、戦争法の成立によつて集団的自衛権の行使を容認した日本は、アメリカとの共同行動、様々な支援策などを通じ、アメリカとの一体化が進んでいます。

予算の正しい使い道は

増大する防衛費の一方で、生活保護費の削減、医療費の抑制、様々な増税など、国民生活を直撃する様々な施策が目白押しです。

自衛隊の解体は将来の課題としても今できるのは、国民の力により、これ以上防衛費を増大させないことです。防衛費を削減し、米軍への思いやり予算などという、属国であるかのごとき「貢ぎもの」を減らし、予算を正しく使うこと、つまりは国民の福利厚生の上上に回すよう、政治の流れを変えましょう。（くりはら のりあき）